

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

麦類赤かび病の防除について

麦類の赤かび病対策は、出穂期後に薬剤防除することが効果的です。麦類の出穂期は平年より早いと予想されていますので、適期防除に努めてください。

技術情報第9号

- 1 対象作物：麦類（小麦、大麦）
- 2 病虫害名：赤かび病
- 3 生育状況および気象情報

- (1) 農林業総合試験場発表の麦類の出穂期（3月19日発表）は、今後の気温が平年並で経過した場合、11月18～19日播種の小麦で12～14日程度早く、11月25日播種の大麦で8～12日程度早いと予想されている（下表）。
- (2) 福岡管区气象台の1か月予報（3月18日発表）によると、向こう1か月（3月20日～4月19日）の平均気温は高く、降水量はほぼ平年並とされている。

表 農林業総合試験場における麦類の出穂期（令和3年3月19日発表）

麦種	品種名	播種期 (月/日)	予想出穂期 (月/日)			調査地点
			本年	平年差	前年差	
小麦	シロガネコムギ	11/19	3/23	-13	-2	大木町
	チクゴイズミ	11/18	3/26	-12	+2	筑紫野市
	ちくしW2号 (ラー麦)	11/19	3/21	-14	-2	大木町
		11/18	3/25	-12	+3	筑紫野市
大麦	はるしずく	11/25	3/24	-8	+2	大木町
	ほうしゅん		3/26	-12	-2	筑紫野市

注1) 平年値はH22～R1年播の平均値。

注2) この値は暫定値で、今後変更することがある。

注3) 予想出穂期は、今後の気温が平年並で推移した場合の出穂期。

(過去の播種期および出芽期から出穂期までの積算温度と、これまでの積算温度および麦の生育状況から予想した。)

#### 4 防除対策

- (1) 1回目の薬剤防除は、小麦と裸麦（開花受粉性）では開花期（出穂後7～10日）、閉花受粉性の二条大麦では、葯殻が押し出されてくる穂揃約10日後（出穂後12～14日）を目安として実施する。ただし、今後の気温の変動により出穂期および防除適期が前後する可能性があるため、必ずほ場内の生育状況を確認してから防除を行う。
- (2) 赤かび病に弱い品種では2回防除を徹底し、その他品種についても1回目防除後に降雨や曇天が続く場合は補正防除を実施する。2回目の防除（補正防除）は、1回目防除の7～10日後に行う。
- (3) 液剤は散布後乾くと降雨があっても防除効果は高いが、粉剤は散布後6時間以内の降雨により効果が低下するので、降雨の合間に薬剤防除を行う場合は、気象情報に注意する。
- (4) 薬剤防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。特に小麦、大麦で農薬使用基準の異なる薬剤が多いので注意する。また、周辺ほ場への飛散防止対策を講ずる。



赤かび病の発生状況（左：小麦、右：大麦）

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。  
「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>



最新の病害虫発生状況